

環境学習「だいし水辺の楽校」の見学会 報告

◇ 開催日時：平成 26 年 8 月 23 日（土）10:00～14:00

◇ 開催場所：大師河原干潟館&多摩川河口干潟

◇ 「だいし水辺の楽校」の講師：

NPO 法人多摩川干潟ネットワーク理事 佐川麻理子氏

◇ 参加者：8 名（会員&その家族）

◇ 内容

「だいし水辺の楽校」では干潟をフィールドに年間を通じさまざまな環境学習を展開しています。今回はこの学習会に参加して環境学習について学ぶことが目的でした。学習の内容は、水辺の安全教育としてのロープワーク、つまりロープの結び方を学ぶことと、干潟へ行っての生物調査の 2 本立てでした。



まず、ロープワークは簡単に固定した輪を作る結びの王様「もやい結び」と紐の端をつなげ、長くする「テグス結び＝電車結び」の 2 種類を学びました。どちらも災害時の救助に役立つ大切な結び方です。



次に皆、長靴、救命胴衣という勇ましい恰好で大師橋下の干潟に向かいました。



ここでは、沢山の種類のカニやハゼを見ることができました。ヤマトシジミは持ち帰り、学習終了後、みそ汁にしておいしくいただきました。



最後に講師の佐川さんと約 1 時間、環境学習についての意見交換を行いました。佐川さんは、

「教えるというノウハウは持っていないので、自然の中で自分が体験した蓄積をアウトプットして子供たちをはじめ多くの人に見てもらおう、という気持ちで続けている。もともと持っている自然への興味（縄文の記憶）を引き出すことが大切」と。マニュアル作り、プログラム作りなどは二の次で自分が面白いと感じたことをする。だから伝わるのではないかということでした。目からうろこのお話でした。今後の本法人の出前講座に大いに役に立つ見学会でした。

